令和５年度　池尻地区

　池尻地区の「コロナ渦で生まれた、つながりと広がり」三宿・池尻まちこま会で地域でできることを 住民とともに考える、をテーマで発表させていただきます。まず初めに地区の概要・特色の説明に入る前に、管内地図を載せていますので、参考にしていただければと思います。

　地区の全体的特徴、基礎データとして池尻地区は人口約２万４千人で高齢化率は 17.27%で、区全体の高齢化率が 20%を少し超えるくらいなので、池尻地区は高齢化率が区全体としては低い方であり、都心に近いこともあり、働き盛りの世代が多い地区と言えます。次に地勢については、池尻地区は区の東側に位置しており、北部には北沢緑道、烏山緑道があり目黒川緑道につながっています。また、南部には、世田谷公園があり緑に恵まれ、休日には　区内外から親子連れなど多くの人で賑わいを見せています。次に交通では、鉄道は最寄り駅として東急田園都市線池尻大橋駅があり、渋谷などの都心方面、また神奈川方面への利便性が高いこと、また道路では、地区の中央に国道 246 号線が、北部には淡島通りが東西に走り、渋谷と区内西方を結ぶ路線バスが運行しており全体として交通の利便性は高くなっています。さらに南北を結ぶ幹線道路は三宿から淡島を結ぶ都市計画道路、補助 26 号線の整備により交通利便性に加えて火災時の延焼遮断帯としての役割に加えて、災害時の避難路としての役割もあり地区の防災性向上に大きく寄与しています。

　医療については、地区内に総合病院が２つあり、自衛隊中央病院は診療科目が充実しているほか、災害時にも対応できる大病院であり、世田谷区外にはなりますが、目黒区の三宿病院とも連携関係にあります。最後に区民利用施設ですが、まちづくりセンターが入る建物には、区民集会所と図書室が併設されており地区の拠点となっています。また健康増進・交流施設の「せたがや　がやがや館」の建物には池尻地区会館、池尻児童館、池尻保育園が入っており、地区の重要な多世代交流施設としての役割を担っています。簡単ですが以上が池尻地区の概要・特色になります。

　ここからは、あんしんすこやかセンターより、池尻地区で行っている『三宿・池尻まちこま会』について、お話いたします。この会は、三宿・池尻地域の方や関係機関の方が、それぞれの立場から、抱えている地域の課題、困りごとを共有し、少しずつでも解決に向けて、地域で連携し、取り組んで行けるよう、話し合いをする集まりです。会の名称は、“三宿池尻まちの困りごとを考える会”から、三宿池尻まちこま会という名称になりました。住民の方が、名付けてくれました。三宿がついたのは、住民の方より、いつも池尻地区っていうけれど、三宿の住民を忘れるなよ！という声で、三宿を頭につけることになりました。

　平成 23 年当時、あんすこでは、地域の高齢者に関する相談を受けていました。その中で、高齢者の困りごとは病気や介護に関することだけでなく、生活全般にわたり、地域のあらゆる世代、立場の方にも共通する課題も多くあり、地域全体が暮らしやすくなるためには、みんなで考えていける場があったらいいのに、という、地域の方の声をいただき、始めました。発足当初は、あんすこ主催で行っており、高齢者の生活に関係する方、住民をはじめ、介護サービス事業所、商店会やスーパー、警察、金融機関などが参加していました。その後、平成 25 年には、まちづくりセンターも協力がはじまり、生活に密着した、住民の声を行政にも届けられるようになり、より活発な意見がでるようになりました。その後、社協も共催となり、住民活動団体　ＮＰＯや社協推進員、ＰＴＡ、若者支援機関などが、

継続して参加されるようになりました。令和４年からは、児童館も仲間入り。保育園・幼稚園、学校など、子育て支援機関にも広がり、四者で企画することで、多世代、多機関が話し合える場になってきました。

まちこま会は、開催するたびに、困りごとの声がいっぱい出ました。「騒音で眠れない」「ゴミのマナーが悪い」「信号が変わるのが早すぎる」「子どもの遊び場が少ない」「車いすが通れない道がある」「害虫がでる」など、困りごとは、幅広くありました。

でも、解決するのはだれなのか？住民にとっては、警察や行政、介護サービスの人たちが何とかしてくれるのではないかと、矛先が向いていました。一方通行が多かったです。会を重ねていくと、徐々に、参加者の方々も、話をしているだけ、誰かに求めているだけ、では変化しないことに気づいてきました。

そんな中、新型コロナ感染症が流行し、開催を一時中断せざるを得ない事態になりました。コロナ禍で、誰もが困った事態になったことで、このまちこま会も見直すきっかけとなりました。会議で、課題をたくさん抽出するだけでなく、より解決に向け、コアメンバーで動き出す、ミニまちこま会を重ねることで、新たな繋がり、取り組みが始まりました。

ここからは社会福祉協議会より発表いたします。コロナ禍の影響により久しぶりに開催したまちこま会では、コロナにより様々な機会が喪失されたことを参加者全員で再確認しました。コロナ禍でも取り組めることとして「コロナ禍でも多世代交流ができる機会」と「情報ツールの活用」といった内容がまとめられました。この内容以外でも、せっかくまちこま会の場で同業種が出会えているのに、同業種で情報交換できる場がないという声もあがりました。

四者それぞれの関係機関から関係者へご案内することで、様々な多様な団体に声掛けができ、コロナ後においてもコロナ前と変わらない 50 名弱がまちこま会に参加いただきました。まちこま会には、町会や地域福祉推進員、民生委員などの地域住民、中間支援団体、行政関係者、医療福祉事業者、金融機関等の企業といった多様なセクターが参加しています。まちこま会の場が、同じ分野、異なる分野同士でつながるきっかけになっています。まちこま会は、コロナ前は年３回開催されていましたが、この数年は、年１回の開催にとどまっています。ただ、コロナ後からは、話し合われたテーマをさらに深めるため、コアメンバーとともにそれぞれの活動のためまちこま会とは別に話し合いの場をもうけて進めようとなりました。

コアメンバーとともに進めていったことで、まちこま会をきっかけにネットワークと実行委員会が立ち上がりました。

一つ目は子育て支援ネットワークです。まちこま会に参加している子ども関係団体から、横のつながり、情報交換できる場がないという声があがりました。また、池尻地区社会福祉協議会としても、子どもも大人も参加できる多世代交流事業を新たに企画展開する必要がありました。このタイミングで、池尻地区社会福祉協議会の事業として、池尻児童館と連携してネットワークを立ち上げました。

二つ目は、まちなか作品展です。まちこま会に参加する町会長数人から、大人も子供も楽しめる企画として、作品展をやれたらとご提案をいただき、町会長にもご参画いただいて四者で協力して「まちなか作品展実行委員会」が立ち上がりました。

町会長ご自身が個展を開催されてきたご経験から「大人も子供も楽しめる企画」を発案いただきました。まちこま会に参加している関係者にお声をかけて実行委員会が立ち上がり、第1回の「まちなか作品展」を開催しています。令和5年2月6日から10日まで、来場者221名。地域住民、障害をもつ方、福祉団体、池尻児童館の子どもたち等、幅広い方々から作品を応募いただきました。作品展当日は、出展者が来場者に作品の説明をしている時のいきいきと語っておられる姿が印象的でした。作品を通じて、来場者同士、来場者やボランティアがつながっていく素敵な空間が生まれました。

今年度も、翌年2月6日～11日まで開催します。新たな取り組みとして、住民によるワークショップもやることになりましたのでぜひご都合つく方がいらっしゃいましたら池尻まちづくりセンターまで遊びにいらしてください。

ここからは、池尻児童館よりご報告いたします。池尻児童館は今年60周年を迎えました。それを記念いたしました地域懇談会とがやがや村まつりには、これまでのまちづくりセンターに加えまして、はじめて社会福祉協議会とあんしんすこやかセンターにご参加いただきました。四者連携はじめ地域の皆様との地域懇談会では「子ども達の遊びの大切さ」「子どものあそびの環境を整える大切さ」を再確認することができました。また、その中で多世代交流のできる「みちあそび」をやってみたいというお声をたくさんいただき、60周年記念がやがや村まつりではじめて実施することができました。社会福祉協議会の運営委員のみなさまがベーゴマ、お手玉、あやとりなどの遊びを通して子ども達と温かく交流してくださいました。右のお写真がみちあそびの様子です。

また、60周年記念の缶バッチを女子高校生がデザインいたしました。あんしんすこやかセンターのご紹介で近くの「デイホーム池尻」のお年寄りのみなさんがそのデザインの原画を引きのばし、カラフルなお花紙を小さくまるめたもので、缶バッチそっくりのすばらしいアートを作ってくださいました。おまつりの前日には「このデザインをした方はどなたですか？」と車いすでデイホーム池尻のみなさんが訪ねてきてくださり、地域の大人の皆さんが見守る中、高校生世代と交流ができました。スライドの左がその時の記念写真です。

さらにあんしんすこやかセンターのつながりで、認知症の皆さんが手すりの廃材に一生懸命やすりをかけて、子ども達のために積み木を作ってくださいました。村まつりの当日もご参加いただき、その横でたくさんの子ども達が積み木をタワーにして大喜びで楽しく遊びました。真ん中のお写真がその時の様子です。

このように児童館が四者連携に入ったことにより高齢者や認知症の皆さんにもご参加いただき多世代交流の第一歩になりました。今後も四者連携として、外遊び・定期的な道遊び・村祭りを通した多世代交流を深め、地域で子ども、中高生世代、高齢者、認知症、障害のある方、子育て中のみなさんがたくさんの顔見知り顔なじみを作り、お互いに助けあえる優しい地域を作っていきたいと思います。

最後に、四者連携の課題と展望です。一つ目は、統一された地区の情報発信をということで、まちこま会でも困りごととして挙がっていたのは、「どこに行けば、最新の情報が得られるのか・わかるのか」です。まちセン、あんすこ、地区社協、池尻児童館もそれぞれ事業を精力的にしていますが、そんな情報があるなんて知らなかったという声が参加者から多く聞かれました。まちセンに行けば、せめて今、何の事業が行われているのか、一目見て分かるような場や空間があればよいのでは、と四者でも協議を進めているところです。ＳＮＳ等の情報ツールをもっと活用しようといった声もありましたが、紙媒体で情報を得ている層も一定数おり、対象にそった効果的な広報戦略を四者でも協議し、事業展開できればと思います。

２つ目は、四者連携で実施する事業の整理、地区の課題設定と取り組みの明確化です。具体的には、住民から出された、まちこま会の中で話し合われた困りごとへ、それぞれアプローチしていくとともに、四者それぞれにおいても捉える課題が異なるので、四者として何の課題に焦点を置き、取り組んでいくのかを協議していく必要があります。
「まちこま作品展」など四者で共同で取り組んだ方がより効果がでる事業、四者が個別にすでに取り組んできた事業の見直し等を含めた棚卸作業を今後進めていく予定です。以上で池尻地区の報告を終わります。